

電気興業株式会社 2022年3月期 決算 投資家様向けオンライン説明会 質疑応答 (2022年5月27日 開催)

<質問 1>

移動通信の投資はこれから本格化と期待していたのだが、25/3 期までの成長は売上高で 7 億円しかない。なぜ、このような予想になっているのか。

回答：

5G 関連投資の状況として、移動通信キャリア各社が、新料金プラン導入等の背景があり、投資の効率化を全面に打ち出している状況。設備投資額全体を見ても、かつてのように数字が伸びている状況となっていない。アンテナにおいては、多周波共用アンテナや 5G 用の Sub6 アンテナを中心に需要がある。傾向として、周波数が高いアンテナはサイズが小さくなり、価格も厳しいものになっていく。しかし、高い周波数はエリア範囲が狭く、本数が必要となるので、ボリュームは期待することができる。全体としては需要に応じた状況となるため、これらを加味した予想数値となる。

この状況への対応として、まず無線機市場への進出がある。オープンネットワークである O-RAN 規格があり、この規格が浸透し始めている。当社も現在 O-RAN 規格に沿った無線機の開発をしており、プレスリリースで開示も行ったが、ドコモ様にも採用いただいている。こちらの出荷は今期に始まる予定だ。また無線機のラインナップは増やす状況にある。これらを以てして、アンテナ需要の減少を補う予定だ。

予想数値は現在の 5G 投資の状況を即した数値であり、5G 投資がさらに加速することを期待している。3G の時代は、初期投資は低いところから始まり、拡大に時間がかかった。i-mode の普及といった起爆剤があり、投資が加速した。4G、LTE の時代も初期投資は抑える傾向にあり、スマートフォンの普及と時期が重なり、各社様が競争をしながら、爆発的に投資が広がった。5G 投資についても、3G、4G の黎明期の投資と同様のフェーズであると考えている。各キャリア様は 5G のサービスに応える形で投資を拡大しているが、起爆剤になるようなものが表れていないのが現状。ただ今後トラフィックの増につながるアプリケーションや低遅延といった 5G ならではの特徴を必要とするアプリケーションの普及が進むと、5G 投資が加速すると考えている。このフェーズに移行すれば、現在の予測数値よりも上振れすることが考えられる。

<質問 2>

高周波の新領域について教えてほしい。

回答：食品ロス対応として高周波による過熱水蒸気に食品を通す事により除菌、殺菌し抗酸化作用を高め、また賞味期限も長くするよう取り組んでいる。環境対応としては、この過熱水蒸気にある廃棄物を通し、殺菌、乾燥させて再利用するような取り組みも行っている。また、廃棄物処理の観点では、廃棄物を高周波で加熱処理し、固形物と油に分離、再利用できないかと検討している。高周波溶解を活用

し、レアメタルの取り出しにも取り組んでおり、その他用途も合わせ、高周波新領域を確立していく。

<質問 3>

当社はこれまで買収防衛策の継続にこだわってきたと思うのだが、今回廃止を決断したのはなぜか。

回答：

昨年度、新たな経営体制になり、この一年、企業風土の改革やコンプライアンス体制の強化といったガバナンスの向上に資する施策を実施してきました。その成果が徐々に実現している状況です。また、中期経営計画の策定を行い、推し進めることで、企業価値向上のための中期的な戦略の明確化に努めております。当社は、新たな経営体制のもとで中長期的な成長に向けた一定の施策を推進してまいりましたが、これから更なる成長に向けた施策を推進してまいります。また、企業価値向上施策が推進されたことに加え、買収防衛策に関する近時の動向、国内外の機関投資家をはじめとする株主の皆様のご意見などを総合的に勘案し、2022年5月12日開催の取締役会において、本プランの有効期間の満了を待たずに、本プランを廃止することを決議いたしました。中長期計画を実現し、企業価値の向上を推進し、この会社を発展させていきたいと思っております。